

令和5年度 台東区立田原小学校 学校経営計画・学校評価表（自己評価・学校関係者評価）

学校教育目標	○思いやりのある子 ○自ら学ぶ子 ○ねばり強い子 ○じょうぶな子
○目指す学校像	①人を思いやる心の強い温かい学校 ②他の人のよさを称える連帯感のある学校 ③夢中になる授業を創造する学校 ④保護者・地域と連携する学校
○目指す児童像	①人の気持ちを大切に思いやりの心をもった児童 ②ねばり強く学習や活動をする児童 ③心身共に健康でたくましい児童
○目指す教師像	①日々の授業の充実と指導力の向上へ切磋琢磨する教職員 ②教育活動を組織的に連携して推進する教職員 ③児童の心をよく把握し、児童の力を引き出し、児童や保護者からの信頼が厚い教職員

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標（4段階）		R4	R5	評価	評価	分析コメント	改善策			
				それぞれの指標を4段階で評価したものの平均値を評価として表した。										
豊かな心の育成	○豊かな心づくりの推進	○夢や希望を育み、思いやりの心を育てる	充実した道徳授業を行い、児童の心をつかむ	年間指導計画に沿って授業を実施した。	3.8	3.2	3.2	児童アンケートで「友達のことを考えて、なかよく行動しているか」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	96%+1	学年で足並みを揃え、道徳の授業を計画的に実施できた。また、OJT研修での道徳授業実践を公開し合うことで指導方法も研修できた。	学年の発達段階に応じて体験的な活動を取り入れ児童の豊かな心情を育み、考え議論する道徳授業を工夫し、進めていく。		
				児童の発達段階や個に応じた指導を工夫した。	3.2	3.2			70%以上					
				児童と共に考え、悩み、感動を共有し、学び合うという姿勢をもって道徳の授業に臨んだ。	3.0	3.2			60%以上					
			夢や希望を育む指導をするとともに自己肯定感を高める指導を行う	道徳の時間に、児童が自己への問いかけを深め、未来に夢や希望をもてるような指導をした。	2.9	3.1	3.2	児童アンケートで「勉強や生活に一生懸命に取り組んでいるか」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	95%+2			まず、教師から児童を認め、児童同士も認め合い、尊重し合う、学級学年作りに取り組んできた。	人権を尊重した教育を中核に据え、学級・学年経営をしていく。
				各教科・領域にて、夢や希望を育む指導をした。	2.8	3.3			70%以上					
				各教科・領域において、個々の児童を認め賞賛する指導を行った。	3.3	3.4			60%以上					
	○夢や希望を育むこころざしの育成	○基本的な生活習慣の定着	○基本的な生活習慣を確立する	挨拶運動を展開し、挨拶が飛び交う校風をつくる	教師自身がすすんで挨拶した。	3.8	3.8	3.5	児童アンケートで「挨拶をしている」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	89%+1	教師が手本となり、常に挨拶を交わしてきた。また、クラスごとや縦割り班でのあいさつ隊に取り組んできた。	挨拶を重点目標として取り組むために、毎月1週目の週目標を挨拶に関する目標に挨拶を定着させる。8時10分には教室で児童を迎えられるよう、挨拶の指導に努めていく。	
					学級で挨拶が日常化するような工夫をした。	3.1	3.1			70%以上				
					毎朝教室で児童を迎え、挨拶を交わす取り組みをした。	2.8	2.7			60%以上				
				集団生活のきまりやマナーを守るとともに、人を尊重した行動をとる指導を行う	人権を配慮するとともに、いじめのない学級・学年・専科経営をした。	3.8	3.3	3.5	保護者アンケートで「いじめ等の対応への信頼」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	58%+1	「いじめの定義」を指導し、いじめを認知した時点で、またアンケートでいじめの把握に努め、いじめ解消に努めてきた。認知したいじめは、保護者への連絡も重ねている。保護者がいじめの正しい捉え方ができるよう今後も根気強く働きかける必要がある。	児童・保護者・地域に、いじめの未然防止、初期対応、解消への取り組み（研修含む）を組織的に行っていく。いじめの定義を学校便りに掲載したり、「学校いじめ防止基本方針」で保護者会で示す等発信し啓発に努めていく。	
					教員や保護者、関係機関と連携し、いじめや不登校の未然防止や早期解決を図った。	3.8	3.4			70%以上				
					不適切な問題行動に対しては毅然とした態度で指導するとともに、問題の解決に向けて粘り強く取り組んだ。	3.7	3.7			60%以上				
公共物を大切に、身の回りを整え、落ち着いた学校生活を送る指導をする。	公共のものを大切に扱う指導をした。	3.7	3.7	3.5	児童アンケートで「靴、ロッカー、机の中をそろえていると言葉遣い」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	87%+2	教師が環境整備に努め、身の回りの整理整頓に取り組むことを、学年・学校全体で連携して取り組めた。	今後も週目標に位置づけ、指導の定着を図っていく。					
	身の回りの整理整頓を心がける指導をした。	3.5	3.4			70%以上								
	時と場に応じた正しい言葉遣いをする指導をした。	3.7	3.4			60%未満								
学力の向上	○基礎・基本の定着	○校内研究やOJTをととして教員の授業力向上を図る	基礎学力の向上を目指し、専門家を招聘して研究授業を行う。	分科会で行われた指導案検討会に積極的に参加した。	3.7	3.1	3.3	児童アンケートで「勉強が分かる」と「授業が分かりやすい」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	87%-5	「書くことが好きになる児童の育成」を研究テーマにして国語「小論文」に取り組んできた。授業が分かる、分かりやすいと感じる児童は前年度より減少した。	授業に対するOJTを計画的に実施する。		
				研究授業及び研究協議会に積極的に参加した。	3.8	3.5			70%以上					
				研究授業での成果を普段の授業に活用した。	3.9	3.2			60%以上					
			OJTにより指導力向上を目指した研修を行う	校内で実施された実技研修に積極的に参加した。	3.7	3.3	3.2	教職員内部評価で「自身の指導力の向上の取組」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	91%-5	年間を通して計画的にOJT研修会を実施した。講師を多くの教員が授業を公開し、協議会を実施することで、幅広い知識を獲得できた。また、すぐに学級で生かせる内容が多かった。	引き続き教員同士の授業を見合うOJTを継続する。		
				各教科・領域の授業をお互いに観察し、指導法について議論する機会を設定し実施した。	3.0	3.4			70%以上					
				研修を通して指導力の向上が実感できた。	3.1	3.0			60%未満					
	○読書習慣の定着	○組織的な指導を行う	効果的に少人数指導やTT指導を行う	グルーピングを適切に行った。	3.5	3.7	3.6	保護者アンケートで「子供の学習内容の理解と分かりやすい授業」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	79%-3	算数少人数担当の教員を中心に、授業の進め方を共有した。また、個別の支援が必要な児童の共有も行い、授業内で個別の声掛けなどの支援を行った。	放課後学習教室や夏の学習教室を活用して児童へ十分な支援を行う。		
				習熟度及び実態の応じた教材を準備した。	3.3	3.5			70%以上					
				学習が遅れている児童に個別に指導・支援した。	3.7	3.6			60%以上					
			学年や講師等の連携で学習指導を計画的に行う	教材研究をして授業に臨んだ。	3.8	3.6	3.6	教職員内部評価で「教材研究や適切な評価」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	100%±0	一人一台タブレット端末を活用し、新しいアプリを使用した授業実践を推進することができている。	全教員がタブレットを有効活用した授業を実践していく。		
				本時や単元のねらいに沿って授業を展開した。	3.8	3.6			70%以上					
				学習したことを適切に評価した。	3.7	3.5			60%未満					

体力の向上	○体力向上 ○健やかな体の育成	○体力向上を目指した教育活動を行う	めあてをもたせ主体的に活動する体育授業を実施する	実態に合わせて、運動内容や運動量を考慮した。	3.5	3.1	3.2	児童アンケートで「体力向上のため進んで運動」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	85% -3	年間を通して体育朝会を実施したり、持久走大会に向けて中休みの持久走タイムを実施したりとすることを通して、進んで運動に取り組む児童が多く見られた。一方で、休み時間に教室に残って言う児童も少数だが見られた。	中休みの時間を増やし、遊ぶ時間の確保。校庭で使用できる遊び用具を増やす。
				めあてをもって取り組ませた。	3.7	3.3			70%以上			
				個に応じた言葉かけをしながら実施した。	3.4	3.4			60%以上			
		体力向上を目指す体育的活動を実施する	運動の特性にふれるような工夫をした。	3.3	3.3	3.2	保護者アンケートで「体力向上への取組」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	79% -2	運動の特性を子供たちに理解させたり、個々に合っためあてをもたせたりすることの難しさを感じている教員が多い。また、体力向上の取り組みをいろいろな形で保護者に発信する必要がある。	来年度は短縄を実施して年間を通して縄跳びカードを使用する。	
			個々に合っためあてをもたせる工夫をした。	2.9	3.2			70%以上				
			運動量を確保した。	3.8	3.3			60%以上				
	○健康教育の充実を図る	健康観察と保健指導を実施し、健康への意識を高める	健康観察をする際には、児童の健康状態を確認し、必要に応じて保健指導を行った。	健康観察をする際には、児童の健康状態を確認し、必要に応じて保健指導を行った。	3.5	3.5	2.8	教職員内部評価で「保健指導の充実」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	72% ±0	養護教諭が中学年以降の保健指導を担当と共に授業を行ってくれた。保健便り等を通じて、健康に対する知識が児童に身に付いた。	保健便り等で保健指導はしているが、保護者にも伝えるように、各クラスで配布するときに指導した痕跡を残すようにする。
				体育や特別活動、その他の時間等を通して、保健指導を実施した。	2.3	2.1			70%以上			
				各種検診の結果をもとに、保健指導を行った。	2.8	2.8			60%以上			
		食育を実施、食に対する関心を高める	栄養士や養護教諭と連携した食育の授業を実施した。	栄養士や養護教諭と連携した食育の授業を実施した。	1.5	1.6	1.8	児童アンケートで「給食を好き嫌いなく食べる」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	85% -2	栄養士の先生が体調不良になってしまったり、変わったりということで、食育の実施はあまりできなかった。毎日の給食についてきていた給食についてのクイズなどで知識を身につけていた。	来年度は、給食についての知識を教えてもらったり、皮むき等だけでなく、栄養についてなど計画的に各学年1回程度指導してもらいたい。(希望)
				配布物や保護者会等で食育について啓発した。	2.3	2.1			70%以上			
									60%以上			
地域との連携	○地域への発信	○地域へ情報発信をする	ホームページを更新し、定期的に各便りを発行する	地域や保護者に向けて、適宜情報を公開するためにホームページの更新を行った。	2.0	2.8	2.9	教職員内部評価で「学校情報の発信」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	79% +29	前年度より評価も上がった。各学年、専科などで積極的にホームページに上げていた。	来年度も計画的に更新していく。
				定期的に各便りを発行した。	2.5	3.0			70%以上			
		教育活動を公開する	学校公開の際には実施案を計画し、その計画に沿って授業等を公開した。	3.6	3.4	3.3	保護者アンケートで「教育活動の公開」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	80% -7	台風で学校公開の回数が一度減ってしまったが、行事などで保護者が多く参観できるようになった。制限がなくなったので、多くの保護者が参観できるようになった。	次年度も多くの保護者が参観できるように公開していく。	
			児童が活動している様子を意図的に伝えるようにした。	3.5	3.2			60%以上				
	○地域と連携した教育活動を実施する	地域の方や保護者が関わる教育活動を実施する	地域、保護者の人材を活用した。	2.0	2.4	2.5	保護者アンケートで「学校、家庭、地域の三者連携」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	81% +3	図書ボランティアの活動、バンド、フラッグのOBが来るなど、地域、保護者の人材を活用できた。	次年度も継続して活用していきたい。保護者の参加できるようにな授業については、年度当初に計画して計画的に進めていくと参加できるのではないかと。	
			保護者が参加できるような授業を計画・実施した。	1.9	2.6			70%以上				
								60%以上				
		地域行事の特色を教育活動に取り入れる	地域行事やPTA行事に参加した。	2.4	3.4	3.2	教職員内部評価で「地域との連携」の質問に対する肯定的意見が	80%以上	84% +51	三社祭、七夕パレード、浅草サンバカーニバル、田原っ子祭り(バザー)など、地域行事やPTA行事が復活し、参加できた。	来年度も地域行事、PTA行事に参加していく。	
			地域の素材を生かした教育活動を実施した。	2.3	3.0			70%以上				
								60%以上				
						60%未満						